登録番号　34-①

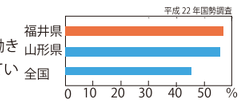
あったまりの種

背景／問題意識　福井のこれからを考えて

1. まちで子育て

共働き率全国 1 位

福井県は 3 世代同居が多く、共働き率が高い。協力して子育てをしていく社会である。



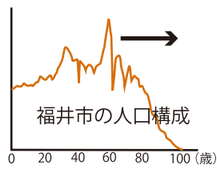
まちなか居住

今後、2 世代や片親の家庭にもサポートが必要である。それがまちなかにあれば、子どもの近くで安心して働け、まちなか居住につながる。

2. 高齢者の活力とセーフティネット

高齢者の増加

高齢者人口の割合は増加する一方であり、元気な高齢者の活力を生かして社会を支えていく必要がある。



加えて、身寄りがない人や裕福でない人も、在宅介護では暮らせなくなった時に、まちや人と関わりつつ生きていく家が必要である。

3. 強い中小企業

福井を支える製造業

眼鏡、繊維等軽工業が発達し、技術を持つ中小企業が多い。

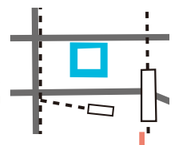
企業交流、産学連携

それぞれの技術を組み合わせ、新しい製品、ビジネスを生み出していく必要があり、県や市としても地元産業を応援していくべきである。

4. 歩行空間の創出

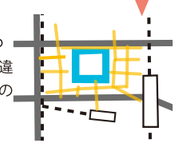
車社会

戦災、震災の復興で道路は広く整備され都市の構造は自動車の交通に適した形となった。



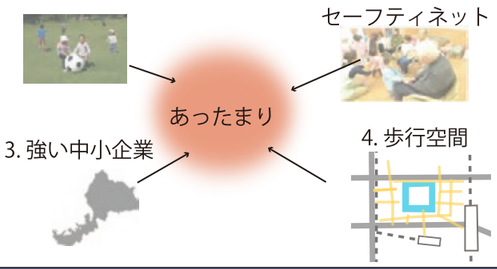
歩きやすいまちへ

EV など小型交通の発達をふまえつつ、歩きやすく、人とまちですれ違ういやすいまちにすることがまちの賑わいにつながる。



提案　「あったまり」による解決

1. まちで子育て
2. 高齢者の活力とセーフティネット
3. 強い中小企業
4. 歩行空間



「あったまり」で人の関係性を育む　「あったまり」とはまちで人がたまる場所、出会う場所

「あったまり」＝「あたたかい」＋「たまり」

→ 子育てや高齢者介護を支援する場
福井の企業を応援する場
歩行者のための場

これらの機能だけでなく、
その中で人が出会うことができるもの
時間をかけて人の関係性を育むもの
それが「あったまり」

あたたまれる場所があれば安心してまちに出られる

シェルターは人々がまちで顔を合わせる場になる

■ あったまりの種類

子どもや高齢者を見守るあったまり

福祉都市の顔・城址公園整備

城址を子どもや高齢者を見守る場やアクティブシニアの活躍の場と位置づけ、都市の中心に整備する。

共同中庭のある住宅地づくり

住宅地に共有スペースろなる中庭を整備し、近所づきあいを通して、周囲と協力しながら暮らせる住環境をつくる。

福井の企業を応援するあったまり

企業同士の交流拠点

福井県や福井市が福井の地元企業を応援する場を都市の中に可視化する。
地元企業同士の情報交換・共同開発を推進。

シェルターのネットワークとしてのあったまり

電車やバスの待合室

公共交通機関の利便性を高め、まちにでかけやすくする。
交通のターミナルはまち歩きの拠点になる。

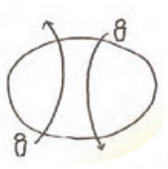
小さなほっとスポット

まちを散策中に一休みできる場。歩きやすい道と一緒に整備することで、場所と場所が無理なく歩いてつながる。

■ あったまりが成長する　あったまりを利用する人の関係性が変わると、空間との関わり方も変わる

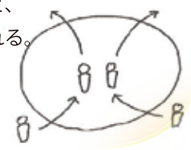
あったまりの種

あったまりが種のとき，
そこは誰かとすれ違ったり，見かけたりする場。
種となる空間を作ったり、管理したりする主体が必要。



あったまりの芽

あったまりの芽が出ると、
そこで人間関係が生まれる。
挨拶や短い会話をする。
空間を使うルールを
人々が持つようになる。



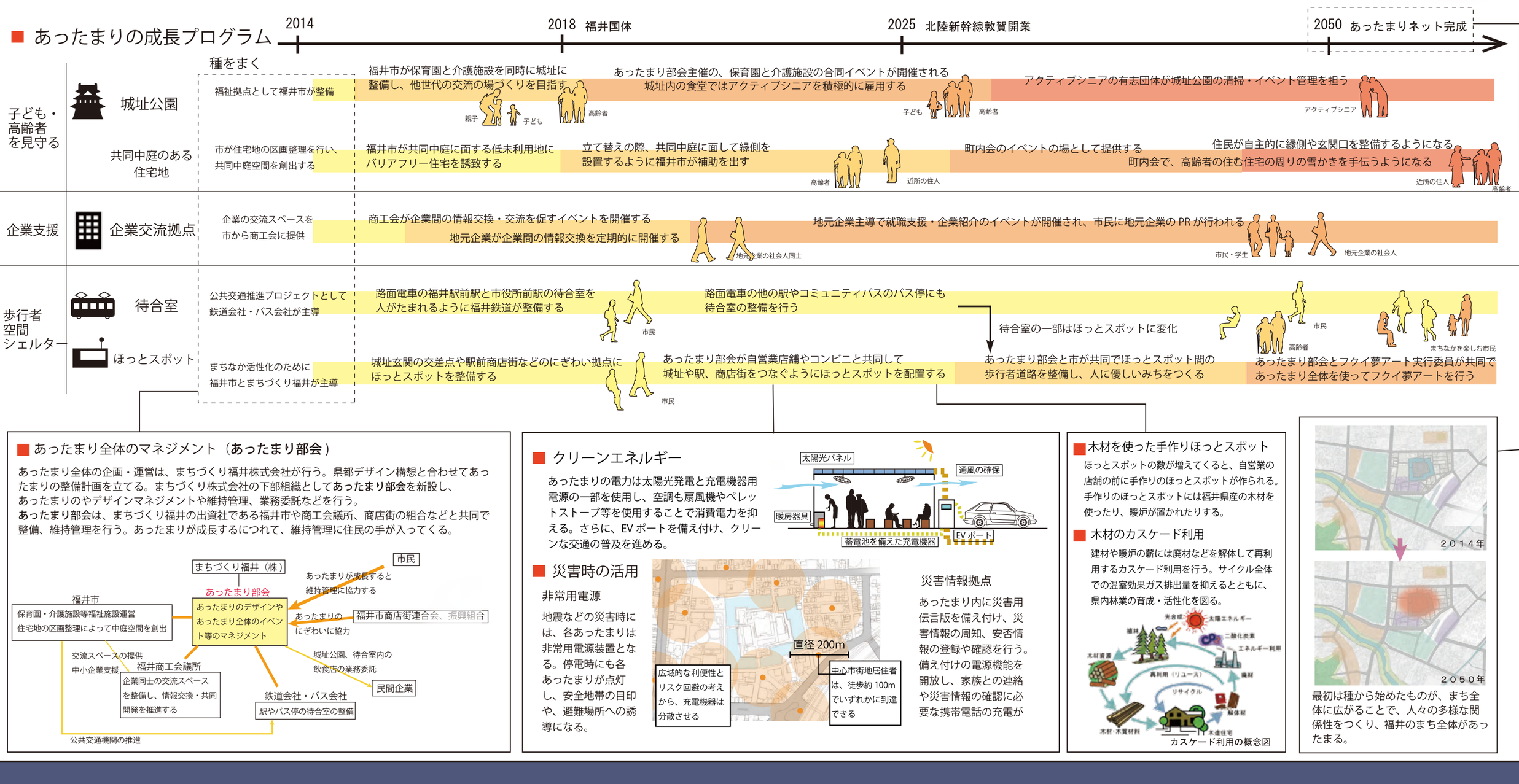
あったまりの花

あったまりの花が咲くと、
そこで人々が交流し、
コミュニティの拠点になる。
人々がイベントを企画したり、
使い方を考えるようになる。

あったまりの実

あったまりが実を結ぶのは、
その場所が人々にとって大事な
場所になったとき。人々はすすんで
整備をするようになり、その活動は
また新しいあったまりの種を生む。

■ あったまりの成長プログラム



■ あったまり全体のマネジメント（**あったまり部会**）

あったまり全体の企画・運営は、まちづくり福井株式会社が行う。県都デザイン構想と合わせてあったまりの整備計画を立てる。まちづくり株式会社の下部組織として**あったまり部会**を新設し、あったまりのやデザインマネジメントや維持管理、業務委託などを行う。
あったまり部会は、まちづくり福井の出資社である福井市や商工会議所、商店街の組合などと共同で整備、維持管理を行う。あったまりが成長するにつれて、維持管理に住民の手が入ってくる。

■ クリーンエネルギー

あったまりの電力は太陽光発電と充電機器用電源の一部を使用し、空調も扇風機やペレットストーブ等を使用することで消費電力を抑える。さらに、EV ポートを備え付け、クリーンな交通の普及を進める。

■ 災害時の活用

非常用電源

地震などの災害時には、各あったまりは非常用電源装置となる。停電時にも各あったまりが点灯し、安全地帯の目印や、避難場所への誘導になる。

災害情報拠点

あったまり内に災害用伝言版を備え付け、災害情報の周知、安否情報の登録や確認を行う。備え付けの電源機能を開放し、家族との連絡や災害情報の確認に必要な携帯電話の充電が

■ 木材を使った手作りほっとスポット

ほっとスポットの数が増えてくると、自営業の店舗の前に手作りのほっとスポットが作られる。手作りのほっとスポットには福井県産の木材を使ったり、暖炉が置かれたりする。

■ 木材のカスケード利用

建材や暖炉の薪には廃材などを解体して再利用するカスケード利用を行う。サイクル全体での温室効果ガス排出量を抑えるとともに、県内林業の育成・活性化を図る。

カスケード利用の概念図

最初は種から始めたものが、まち全体に広がることで、人々の多様な関係性をつくり、福井のまち全体があったまる。